

Only One

北総教育事務所 特別支援教育通信
令和5年9月号 No.2

まもなく今年度の折り返し地点となります。前期を振り返り、「個別の教育支援計画」・「個別の指導計画」の作成・活用について点検し、きめ細やかな指導・支援の充実を図っていきましょう。

Check : 作成漏れはない。



「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」の意義や作成と活用について、平成29年告示の小学校(中学校)学習指導要領の第1章総則(第4の2エ)で、新たに示されています。

「関係機関との連携を図り、長期的な視点で児童生徒への教育的支援を行うために、個別の教育支援計画を作成し活用することに努めるとともに、各教科等の指導に当たって、個々の児童生徒の実態を的確に把握し、個別の指導計画を作成し活用することに努めるものとする。」とあります。

また、特に、特別支援学級と通級による指導においては、努力義務ではなく、作成・活用が必須となっていることに留意が必要です。貴校の対象児童生徒で、作成漏れはありませんか。

Check : 活用を図っている。



第3次千葉県特別支援教育推進基本計画(第3章2節)において、障害のある子供の学びと切れ目ない支援体制の充実を目指すために、個別の教育支援計画・個別の指導計画の活用を図っていくことが大切であるとしています。現状(令和2年度)では、70%前後の活用率ですが、令和8年度の目標値は90%となっています。

目標値の活用率とは、『進級や進学等の際に、計画を活用して個別に説明や引継ぎを行うとともに、説明後に計画を渡した児童生徒の割合』のことですが、このような年度末・年度初めの活用はもとより、年間を通して日常的に活用を意識して取り組むことが大切です。

個別の教育支援計画及び個別の指導計画は、きめ細やかな支援を、組織的・継続的かつ計画的に行うために重要な役割を担っています。なお、個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成による指導は、各学校における「基礎的環境整備」にあたります。

日常的に活用を意識して取り組むって？ 事例を紹介します。



○指導・支援内容の検討・質の向上→共通理解→つなげる(引継ぎ)の流れで考えると取組がスムーズになるでしょう。また、外部の関係機関等と情報を共有する際は、保護者の了解を得ることを忘れないようにしましょう。

- ① ケース会議をして目標や支援方法を検討した際は、個別の指導計画を作成又は修正します。目標がなかなか達成できないときは、思い切って見直したり、支援方法を変えたりすることも必要です。学年末に慌てないようにこまめなPDCAのサイクルを心がけます。
- ② 保護者との個別面談の際に、児童生徒の変容や指導・支援の成果等を確認するために、活用します。合理的配慮についてもこまめに記録します。
- ③ 新たに福祉サービス等を受ける際に、関係機関との情報共有のために活用します。

ユニバーサルデザインの視点を取り入れた『どの子供にも居心地のよい学級づくり』

北総教育事務所特別支援アドバイザー 鈴木春雄・保科靖宏・佐瀬史恵

特別な配慮を要する子供たちに見られるような特徴が、通常の学級の子供たちの多くに何らかの形で見られることがあります。そのような学級では、特定の子供だけに個々の対応をしては、学級集団全体をおさめきれないという課題が生じてしまいます。学級の子供たち全体に配慮を行き届かせることが大切であるということです。

そこで、このような場合、『特別な支援が必要な子供だけでなく、どの子供にも過ごしやすく学びやすい学校生活・授業を目指すこと。』という通常の学級におけるユニバーサルデザインの視点をもつことが有効ではないでしょうか。



ミニ黒板にスケジュールを書いたりカードを貼ったりする等の視覚支援を実施し、環境のユニバーサルデザインを心がけています。しかし、進級して3か月経ちますが、騒がしく落ち着かない状態が改善されないで、悩んでいます。

このようなことは、考えられませんか。

参考文献:阿部利彦、赤坂真二 著
『人的環境のユニバーサルデザイン』

例えば、黒板にカードを貼って視覚支援(ハード面)を実施しても、教師の説明が不明瞭(ソフト面)ならば、子供たちは内容を理解できないでしょう。逆に、子供たちが教師を信頼している(ソフト面)場合でも、板書がなく一方的に聞く授業やスケジュールが頻繁に変更になるようでは(ハード面)、支援の必要な子供は落ち着いて学習できないでしょう。

ハード面(環境整備)とソフト面(教師の話し方等立ち居振る舞いやスキル)の両方で支えることが学級づくりでは大切だと言われています。落ち着かない状態が続いている場合は、指示の出し方やほめ方等のソフト面を見直す必要があるとは考えられませんか。

ユニバーサルデザインにおいては、支援方法が先にあるわけではありません。目の前の子供たちに何が必要か、どのような刺激を制限していけばよいか等、子供の視点、学ぶ側の視点で工夫していくことがユニバーサルデザインの実践のスタートラインです。

これなら登れそうだ。登っている実感もあるので頑張れそうだ。

1段が高くて登れないよー

スモールステップで始めましょう。

(例) 私語が多く静寂が保てない学級では、スモールステップで始めると良いでしょう。

- ①30秒黙って作業する。→できたらすかさずほめる。
- ②1分間黙って作業する。→できたらすかさずほめる。
- ③2分、3分と時間を増やしていきます。

※集中時間を記録して掲示し、成長を確認し合います。

特別支援アドバイザーは、支援を要する子供たちへの指導方法の工夫について、特別支援学級担任、通級による指導の担当教師、支援員等を含む全教職員に対し助言・援助をするだけでなく、校内研修会等における講師も行います。派遣要請については、公立幼稚園、小学校、中学校は市町教育委員会を通じて、教育事務所指導室までお願いします。